

□議員名：大井淳一郎

## 1 今後のきらら交流館の在り方について

論点	きらら交流館再整備の検討状況はどうなっているのか。
回答	入浴施設の給湯設備が更新時期を迎えるなど、老朽化への対応を含めた施設の今後の在り方を検討している。観光交流施設としての側面が強いことや多様化する利用者ニーズを受けて新しいコンセプトの下で再整備の検討を行うこととした。令和5年度から設計・工事が始まり、早ければ令和7年度に供用開始を想定している。

論点	新たなコンセプトとは何を意味するのか。
回答	①スマイルエイジング ②道の駅等の観光交流拠点 ③地域資源を生かした交流人口の増加及びにぎわいの創出 ④その他市の課題解決につながるものである。

論点	きららガラス未来館や竜王山オートキャンプ場などの周辺施設とどのように融合させていくのか。
回答	交流館周辺は、焼野海岸やくぐり岩も含め市内外から多くの方が訪れるスポットが集まる、観光面においてポテンシャルの高いエリアである。今後も周辺のさまざまな地域資源を生かした取組みの可能性について調査分析することとしており、再整備によって一体的なにぎわいが創出されることを期待している。

## 2 職員の働き方改革について

論点	テレワークの実施状況はどうか。
回答	昨年の実績は、企画課、シティセールス課、公営競技事務所、中央図書館及び議会事務局の5部署21人である。現在は、国のテレワーク実証実験に参加して、自宅で職場と同じパソコン環境が整備されている。

論点	ペーパーレス化の現状はどうか。
回答	新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、書面主義、押印原則、対面主義からの決別が喫緊の課題となっている。住民に身近な手続など、さらなるデジタル化、ペーパーレス化の推進に取り組んでいきたい。

論点	オンライン会議の実施状況はどうか。
回答	利用実績は、昨年5月では6件16件の利用であったが、本年2月では67件260件と増えてきている。利用内容は、会議、研修、業務支援、説明会などである。

論点	テレワークやオンライン会議を進めていくためには Wi-Fi などの基盤整備が必要と思うが、どうか。
回答	社会の情勢が変わってくると仕事のやり方も変わってくるし、市民サービスの提供も変わっていく。デジタル環境整備があって初めてソフト力が発揮される。これらを見据えた中で、4月以降、新たな部署の設置を含め、推進していきたい。

### 3 まちの魅力発信について

論点	ふるさとチョイス「選べる使い道」の対象事業を具体的に示すなどして記載を充実させるべきと思うが、どうか。
回答	「選べる使い道」の記載は総合計画の章立てを掲載している。対象事業を具体的に示すのは、クラウドファンディングになると思う。これについては、現在検討中である。

論点	今後、公式 LINE をどのように活用していくのか。
----	----------------------------

回答	市民からの問合せに対応するチャットボット機能、ごみ・観光・防災など必要な情報だけをセグメントで発信する機能、災害時の連絡ツール、申請等やアンケートなどに LINE を活用していきたい。
----	--

論点	この 4 年間を振り返って、また今後どう取り組んでいくのかについて市長の考えはどうか。
回答	魅力発信については、シティセールス課を設置することによって新たに生じたと思っている。これからは、デジタル化の推進等、発信の手法も工夫が必要であるが、市内だけでできるものではない。市内外の皆さんの力を借りながら、まちの魅力をつくり、発信し、輪を広げていくことを今後も続けていきたい。